

総務企画防災常任委員会行政視察報告書

大須賀 幸雄

○愛知県安城市

市議会 I C T 推進基本計画について

【所 見】

本市でも導入に向けて研究中の議会の I C T 化。

私のような高齢（68歳）の議員にとっては少し煙たいテーマである。

便利になることはなるだろう。資料等が印刷物でなく、データで配信されることは膨大な資料を作成し、それを配ることに神経をすり減らすに違いない議会事務局をはじめ、執行部の職員の皆様の負担軽減になるであろう。また、私たちにとっても、配られた資料の整理に苦慮し、必要な時に見つからないなどのもどかしさもなくなるだろう…。などなどさまざまな利点が浮かんでくる。しかし、それを使いこなせるかなあと、心配が先に来るのである。

今回の視察はそんな不安を払拭してくれるものであった。

実際に使用しているタブレットの機能を見せていただいた。利点がたくさんある。

- ・スケジュールの配信
- ・ペーパーレス議会
- ・資料の保存、整理
- ・タブレットへのメモ機能 等々

足利市議会でも早期に導入し、より活発な議論ができることを望む。またタブレットを議場以外でも議員活動にも活用できるようにしたいとの話に、多方面への活用に可能性のある機器であると大いに興味をそそられた視察であった。

○静岡県浜松市

・浜松市議会大規模災害対応行動マニュアルについて

【所 見】

大規模災害時に、議会、議員がどう動けばよいのか。たいへん難しい部分があると考えている。それは2011年の東日本大震災のときの私の行動を思い出してみてもそれが正しかったのかわからないからだ。

災害対応行動マニュアルを作成し、議会の統一した行動指針を定めることは有意義だと思う。

市の災害対策本部に協力することは当然であるが、自分の地元への対応を強要することのないようにすることを一番に考え、地域の一員として住民の安全確保と応急対応にあたる必要がある。そして各地に組織されている「自主防災会」を束ねる役などを担えたらよいのではないかと考えている。

前述の東日本大震災のとき、途中解散となった会議から、私はまず地元に戻って家と家族の無事を確認した後、地元を一周し各地の被害状況を見聞きしてきた。そして、土砂崩れにより歩道が土砂に覆われ、車道の一部に達している箇所をカメラにおさめ報告の準備をした。

公民館に立ち寄り全容を報告し、自主避難希望者のあることを知りその対応に協力をした。

その後日に行われた市職員の各地の被害調査に同行し、被害発生箇所の案内をすることができた。

災害時の行動とはマニュアル通りとはいかないと思うが、本市でもマニュアルを策定して、議会議員としての行動を心得ておくことは必要に思う。またそれと共に日頃から「人のために働く」と心得ていたい。

・浜松市ソーシャルメディア活用ガイドラインについて

【所見】

ソーシャルメディアの活用は多くの自治体で活用している。それが市のPRなどに大いに役立っていることは間違いない。しかしインターネットを使った情報発信には時に大きなリスクを伴うことをしっかりと認識することが必要である。その拡散性とスピード、そしてそのデータの保存の容易さ。

これらを踏まえたうえで活用を図ることが重要だ。浜松市で策定しているガイドラインには遵守事項や禁止事項を、公的な利用と私的な利用にまでさまざま掲げてある。

本市においても参考にしてこうしたガイドラインを早急に示してもらいたい。

また、議員のメディア活用においても心しておかなければならないことで、たいへん意義深い視察であった。